

令和5年度 第2回 羽島市立図書館協議会会議要旨

日 時	令和6年2月15日(木) 午後1時30分～午後2時30分
場 所	図書館2階研修室
出席者	<p>【図書館協議会委員】任期：令和4年5月1日から令和6年4月30日</p> <p>図書館協議会委員 小川 和彦 (学校教育関係者)</p> <p>図書館協議会委員 森田 恵子 (社会教育関係者)</p> <p>図書館協議会委員 坂田 田壽子 (家庭教育関係者)</p> <p>図書館協議会委員 柳川 禎章 (学識経験者)</p> <p>図書館協議会委員 木下 慎一郎 (学識経験者)</p> <p>図書館協議会委員 赤地 奈津美 (市民公募者)</p> <p>【事務局】</p> <p><図書館長> 番 重宗 <図書館長補佐兼総務係長> 高井 依里香</p>
内 容	<p>1 委員長挨拶</p> <p>2 報告事項</p> <p>(1) 令和5年度図書館事業の進捗状況について</p> <p>資料に基づき事務局より説明</p> <p><委員> スタンプラリーとはどのようなことを行うのか。</p> <p><事務局> 岐阜県図書館が主催となって行っている事業であり、県内各地にある図書館を巡ってスタンプを押してもらい、ある程度のスタンプを集めたら記念品を受け取るというものである。羽島市立図書館も毎年参加している。</p> <p><委員> 行事の時の来館者数や参加人数は把握しているのか。</p> <p><事務局> 図書館まつり等での参加人数は分かりかねるが、8月1日の夏休みイベント「みるく教室」では保護者を含めて38名が参加された。</p> <p>しかし、ブックリユースでは入り口を開放して対応しているため、参加人数を計測することはできなかった。</p> <p><委員> 子供たち向けのイベントを企画してもらったのはありがたいことであるが、個人的には各年代を幅広く対象とした図書館よりも、ある程度対象年齢を絞った特色ある図書館としていくのが好ましい。</p> <p>そうすることで通常の図書館利用状況と企画実施時前後の利用状況を比較して次年度の予算に反映させていくのはどうか。</p> <p><事務局> 来館者数なら計測しているので、そちらの数値を参考にしていく。</p>
報告事項	

3 協議事項

(1) 令和6年度羽島市立図書館運営方針（案）について

資料に基づき事務局より説明

<委員> 図書館で活動している団体とは具体的にどんな団体があるのか。

<事務局> 例えば、今回ブックリユースを行っていただいた「図書館友の会」のほかにもボランティアで読み聞かせを行っていただいている団体がある。そちらについては図書館まつりの際に活動内容を周知し、またボランティアの募集についても随時行い、希望された場合は参加への支援を行っている。

他にもクラフト教室を行っている団体や朗読等を行っている団体等があるので、活動内容を周知していき、参加希望者との仲介をしていければと考えている。

<委員> イベント実施日における来館者数の増減や貸出冊数の変化なども分析してみるべき点だと考える。

以前の映画観賞会の際に関連した内容の本を出しておくべきという意見が出たように、活動団体の内容に合わせた選書を用意するなどするのはどうかと思えた。

<委員> 図書館を多目的スペースにしていくという案は賛成である。資料の重点項目に挙げられている内容には同意するが、図書館の目的などをアピールしていくには弱く感じた。イベントでもその傾向にあるように若年層に重きを置いていくとよい。

個人的には非来館者を増やしてしまい、情報スペースとしての活用という目的にミスマッチしてしまう点から、電子図書への予算配分を減らしてもいいように思われた。

例えば、子ども向けに限らず大人向けの絵本や各国の絵本を用意するなどして、絵本を前面に出していく。また読み聞かせなどの絵本を題材にした市民団体や羽島高校との協力も取り付けるなどして、数年をかけて図書館のネームバリューを培っていき、施設の充実を図っていくことが望ましい。

<事務局> 電子書籍については障がい者サービスの観点や遠方の利用者の方のためにも非来館者サービスの充実は必要であることから、今後も実施していく方針である。

また、幼少期から読書に慣れ親しんで習慣化していったほしいという考えから、先ほどお話しされた絵本に関することも充実していきたいと考えている。

<委員> 令和5年度と令和6年度の運営方針を見比べているが、新しく追加された方針を実施した結果を具体的に報告することはできるか。

<事務局> まず、市内の小中学校の児童生徒に支給されているタブレットからはしま電子図書館の利用ができる体制を整えた。そのため、前年度に比べて電子書籍の冊数は増加した。総合目標の中で「市民一人当たりの貸出冊数」に目標数値を定めているが、令和6年度の目標数値が4.15冊であるのに対し、現状のまま数値を算出すると、試算ではあるが、4.36冊となり、目標を上回る。電子書籍だけでなく紙の書籍に対してもコロナ期に比べて来館者が増えてきているので貸出数も回復してきている。

また、すぐー等を活用することでイベントの告知などを行っている。

最後に感染対策について、コロナだけでなくインフルエンザも目立ってきていることから、現在も手すりなどを職員が定期的に消毒している。数値としてわかりやすいものはないが、安全対策としては徹底している。

<委員> 最近の赤ちゃんタイムについて、利用者はいらっしゃっているがボランティアの数が著しく少なく、体力的に厳しいと感じている。このままでは赤ちゃんタイムの継続も難しく、廃止してしまう危険性もある。事務局としてはどのように考えているか。

<事務局> ボランティアについては随時募集をかけている。何人か応募してくださっている方はいるが、平日の参加は厳しいとして赤ちゃんタイムへの参加まで行き届いていない。

<委員> 赤ちゃんタイムに限らず、様々な団体が高齢化している。募集をしているとしても個人での申請であるため、参加日数に偏りが出ている。そのため、図書館のほうで若年層のボランティアを養成する気概で対応を考えてほしい。

団体側としても後継の育成には責任をもって尽力したいと考えている。イベントに参加されている保護者の方に呼びかけるなどして、既存のメンバーに限らない若い世代の養成を心掛けてほしい。

<委員> ところで、新たなイベントを実施するということだが、具体的に何なのか。

<事務局> ボードゲームのイベントを定期的に行っていく予定である。ボードゲームに限らず囲碁や将棋も用意しているので、利用者のコミュニケーションの機会を設けていく。

4 その他

(1) 委員の改選について

資料に基づき事務局より説明

(2) はしま電子図書館アンケートの結果について

資料に基づき事務局より説明

<委員> アンケートについて任意回答であるならば普段電子図書館を活用していない児童はそもそも回答していないのではないかと結果の信憑性に疑問を感じる。家庭で回答している可能性もあるので、全校一斉に回答を実施した場合とは結果が異なってくるのではないかと。

私もタブレットでの学習を終えた児童がそのまま電子書籍を読み始める姿を見たことがある。電子書籍なら仕舞ってある本をその都度用意する手間が省けるので、普段本を読まない児童が読書するきっかけにはなっていると思う。

ただし、そのような細々とした需要に応えるために現在電子書籍に活用している予算のことを考えると、費用対効果の面でも疑問を覚える。そのため、先の話にあった電子書籍の縮小化には個人的に賛成である。

もし再びアンケートを行うのであれば、読む読まない関係なく全児童を対象とした回答を一斉に実施し、その結果を集計した上で方策を練る方がよい。

<事務局> アンケートを取る際になるべく負担にならないように配慮したが、ご協力いただけていない学校もある。電子図書館にしてもあくまで環境を整えたというだけであり、読書の形の一つであるため電子図書館の利用を強制することはできない。

そのような現状で今回アンケートを実施したので全校生徒を対象にしたにしても数は少ないが、今後は電子図書館を利用していない人にも利用してもらえるように推進していく。

また教育委員会とも通じて、来年再来年もアンケートを行っていきたいと考えているので使っていない人にどのように推進していくかは今後の課題と考えている。

<委員> アンケートについて、学校側に配慮して行っていただいたが、電子図書館のことだけでなく、各学校でも問題意識を持ちやすい内容、もしくは各校で保管しておきたいようなデータをとれる内容の質問を設けると協力してもらえるようになると思われる。

<事務局> 現状でも学校教育課に電子図書館の貸出状況を情報共有している。
中央小学校からも電子図書館の利用状況について質問をいただいた
経緯もあり、各学校とも情報を共有していく予定である。
意見をいただいたように、今後は電子書籍だけでなく読書全体の推
移について分かり合えるような内容にしていきたいと考えている。

5 閉会